

学生の自主的な取組への支援

教育学部就職専門委員 阪根健二



今、教育学部内に「就職自主サークル」という変わった学生組織があります。そこには、約90名程度の学生が集まっていますが、毎週2時間の学習会を開催しています。自主的な組織ではありますが、就職専門委員会から認知されている、教育学部の“名物”でもあるのです。

このサークルは、ひよんな所から生まれました。



4年前、私は教育現場（中学校教頭）から交流人事で、専任教員として教育学部に赴任いたしました。赴任直後、まだ整理がつかなかった研究室に2人の女子学生が訪れ、「教員になりたいのだが、自主的なゼミを開講して欲しい」と懇願してきたのです。実は、平成11年度から客員教授として本学で教職の集中講座を実施していたこともあり、学生とは若干の面識がありましたので、何か役に立てるならと気安く引き受けたのです。それから、段々と人数が増え、その後“自主サークル”という名称で、学生自身が運営する教員採用試験対策の学習会が正式に発足したわけです。

さて、学生にとって、就職試験は大きな壁です。特に4年生が近づくにつれ、試験に対する不安感は大くなるのですが、何かから手をつけてよいのか、どのように勉強したらよいのか途方にくれ

ているのです。そんなとき、このサークルが大切な存在となっているようです。ここでは、教員採用試験対策が中心なのですが、それ以外の職種希望の学生も同様に参加しています。

サークルの最も大きな活動は「実践」につながる内容です。中でも、「現場につながるトッパシリーズ」と題して、“ロールプレイ(役割演技)”を繰り返しています。毎回「〇〇な問題が起こったとき」「保護者から〇〇な苦情が来たとき」あなたならどのように対応するかというテーマから、その場面にでてくる登場人物を割り当て、決められた時間の中、即興で演技を行います。瞬時な判断と行動が求められることから、模擬体験ではありませんが、「緊張感走る教育現場」を肌で感じることができるよう。また、新聞記者など、様々な社会人を招聘し、講演会も実施しています。これは、交渉から講演会実施までの企画そのものが重要な体験となっているのです。

こういった活動は、単なる学習会ではなく、コミュニケーションの場でもあり、不思議な連帯感の中、これからの就職について考える場ともなっており、今や学部を越え、多くの参加があるのもそういった理由からでしょう。



昨今は、朝の地域清掃活動（地域の方と一緒に毎週実施しており、学長や県知事が参加することもあります。）や、トイレ清掃ボランティア、また、警察と協力して地域安全マップの作成まで企画・運営に関わっています。これらの取組は、テレビや新聞で何度も紹介され、それが励みにもなっているようです。

これらの体験は、様々な副産物を産み出します。特に外部講師等の講演において、講師の到着と同時に、学生が自然に起立するなど、意外な成果が現れています。

現在、就職専門委員会では、この自主的な取組をバックアップしています。こういった活動は大学では珍しいかもしれませんが、これから社会（特に教員）を目指す学生にとって重要なことだと考えています。

出口指導の根本は、社会で自分を表現し、社会に貢献できる人材を育成することであり、それを支援する姿勢こそが、学生を変え、学生自身が応えるのではないかと考えております。



（参考資料）就職自主サークルで活用した資料

ある県の教員採用試験面接

*面接官2名 受験者5名

（2006年7月実施）

- 1 あなたが印象に残っている先生を、30秒で述べよ。
- 2 保護者が求める教師とは？
- 3 子どもが席替えをするとき、好きな者どうして座りたいと言ってきた。あなたの手だては？
- 4 あなたが教師として取り組みたいことは何か？
- 5 志望動機を教えてください。
- 6 音楽の先生に「あなたのクラスは音楽の時間でうるさいのだが」と言われた。どうするか？
- 7 あなたが日々努力していることは何か？
- 8 クラスで飼っている金魚が死にました。クラスでは飼育係が責められています。どうしますか？
- 9 今まで一番楽しかったことは何ですか？

注) 質問に付け加えられること

- ①30秒以内で教えてください。…時間厳守
- ②端的に述べてください。……アンチクライマックスで
- ③やや長めに話してください。……それでも1分以内

このように、採用試験の面接の雰囲気分かるかと思います。実践を通した質問では、経験者が有利であるのは間違いないのですが、現役の場合、自主サークルで実施しているロールプレイがいかに有効か感じられたと受験者の弁です。また、教員に限らず、とっさの判断は、どんな職種にもいえるのです。

「企業研究のすすめ」

法学部就職委員長 浪花 健三



「日本人の国民性調査」(大学共同利用機関法人情報システム研究機構統計数理研究所)では、20歳以上の者に「もし、一生楽に生活できるだけのお金がたまったら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか」という設問に「ずっと働く」「働くのをやめる」「その他」「わからない」の選択肢から選ぶ回答の結果を見ますと、いずれの調査年度においても、「ずっと働く」が一番多く、2003(平成15)年は59%となっています。また、「新入社員意識調査」(財団法人社会経済生産本部)では、新入社員に対し「就職先選びに際し、会社に対して求めたこと」について、6つの選択肢から選ぶ回答の結果を見ますと、いずれの調査年度においても、「仕事にやりがいがあること」が第1位です。2006(平成18)年は66.5%と3分の2の者がこの選択肢を選んでいます。一方、第2位の「給料がたくさんもらえること」が9.4%であり、就職先選びには仕事のやりがいが最も大きな基準であることがわかります。

そこで重要となるのが、「業界企業研究の方法」です。先日、法学部・経済学都合同で開催された「就職セミナー」でも、OBの方が、「今年度の学生さんは、企業研究を十分していない」との発言もありました。

就職試験で必ず聞かれるのが、「あなたはなぜわが社を志望したのですか?」という質問です。この質問に的確に答えるためには、しっかりとした企業選びが必要です。

みなさんは、漠然としたイメージや、人気、自分が知っているかどうかだけで、企業を選んでしまいがちです。学生の人気ランキングに上がった会社が、それから5年後10年後に経営危機に見舞われるということもあります。まずは周りや自分のイメージに振り回されるのではなく、しっかりと「選

ばなければ」なりません。

「選ぶ」ためのSTEPは、まずは、業界企業研究をすることからはじまります。

業界企業研究の目的は、①優良企業の新たな発見、②志望企業の業界内でのポジション確認、③就職動機を明確にすることの3点だといわれます。

企業数は、株式会社だけでも200万社といわれています。世の中にはあなたの知らないところで優れた技術をもった企業がたくさんあります。志望する企業を人気企業、マスコミに登場する有名企業ばかりに絞り込むのではなく、数多くの優良企業から自分に合った企業を選ぶことが大事です。次に、業界内での他社との比較検討をすることにより、その企業の優劣や魅力を確認することも重要です。そして、業界を徹底的に研究することによって、自分の言葉や自分の考えで業界やその企業を語れるようになり、自分の志望動機が明確になります。

業界企業研究のステップは、通常は業界一企業ですが、同時並行で進めるのもよいと思います。①自己分析・自己理解をして、自分が進みたい方向を決める、②進みたい方向の業界研究をする、③業界研究を通じて興味がわいた企業をピックアップする、④個別の企業研究をする、という順番でしょう。

最初に業界を絞り込んで固定化してしまえば、なかなか業界を変えられなくなってしまいます。そうした場合には、自己分析と業界研究や企業研究を交互に見直し、自分の進む方向を適宜修正しながら、自分の適性とマッチする志望業界・企業を見つけていくようにしてください。みなさんの御健闘を祈ります。

就職対策はあるか

経済学部就職委員長 堀井 愷暢



「学園の志おり」に就職についての原稿を載せるのは5年目で、私にとって最後の掲載になる。その意味で、就職に関する学生諸君に対する教員生活最後のメッセージになります。過去4回の私のタイトルは、「入学、就職活動そして卒業」、「儲けさせてくれるのか」、「学生生活と就職」、「就職とは」と変遷してきているものの、私の皆さんに伝えたいことは変わりません。「学園の志おり第11号」には、各学部就職委員長等による、主として就職戦線に臨む学生に対するメッセージが掲載され、学部の事情で多少異なるものの皆さんにとって有用な情報が満載されているので、是非参考にしていただきたいと思います。

「就職対策はあるのか」という問いに対しては、「ある」というのが私の回答です。ここに香川大学キャリア支援センターの香川大学求人提出企業担当者に対する香川大学学生に求めるものについての最新（平成18年9月14日現在）のアンケート集計結果があります。それによれば、学部に関係なく「熱意・意欲・積極性」及び「コミュニケーション能力」という2つの項目が最も多く求められています（複数回答可）。このことは、3年生のための、企業採用担当者に関わっている卒業生をパネラーとした法学部・経済学都合同シンポジウムにおいても、学生に求められるものとして挙げられています。そうだとすれば、このような能力はどのようにして習得するのが問題になります。その前に「コミュニケーション能力」とはどのような能力であるのかを明らかにしておく必要があります。これについては、人それぞれ表現の仕方は異なりますが、ここでは、人との関わりの中で、多くの知識を持った上でのその時々での最善の判断（言語及び行動についての）をする能力としておきます。

経済学部では、1年生に対して基礎ゼミナールが、2年生に対して次年度にはプロゼミナールが、3・4年生に対しては演習（ゼミ）が設けられています。ここでは、それぞれ目的は少しずつ異なりますが、少人数で個人の目標達成はもちろん全体としての目標も達成しようとしています。しかも個人目標と全体目標は相互に関連しあっています。そこでは、積極的に仲間と関わり、相互啓発が求められ、コミュニケーション能力が必要とされます。したがって、少人数の教育の場が、求められている2つ項目を習得する場でもあります。その意味で、少人数教育を大切にしたいと思っています。最善の判断をするためには、専門教育をはじめとして多くの知識が必要ですから、社会の多くのことに関心を持つことが重要です。課外活動によって、狭い範囲ですが上下関係や目的を持った集団活動によって、コミュニケーション能力やリーダーシップが養成されます。このようにしてみると、結局は、その時々での学生生活を充実させていくことが、就職対策ということになります。

ところで、3年生は、既に就職サイトへの会員登録を済ませ、業界研究や企業研究を行っていることと思います。また、企業セミナー（ガイダンス）も始まっているかもしれません。焦る必要はありませんが、就職活動に出遅れないようにして下さい。就職活動では、最初に就職希望先のエントリーシートによる選考を突破しなければ、次の選考に進めないようになってきてきますので、自己分析等対策を立ててください。ゼミ活動をはじめとして、普段通りの充実した学生生活を送って下さい。就職活動では最後の最後まで諦めることなく、よい結果がでるまで就職戦線に踏み留まり、頑張ってください。意志あるところ道あり。以上が就職委員長としての最後のメッセージです。

進路を考える

工学部就職副委員長 増田 拓朗



◆工学部卒業生・修了生の進路

2006年3月に工学部を卒業した学生は236人。その進路の内訳は、民間企業120人(51%)、公務員6人(3%)、大学院進学103人(44%)、その他(研究生、未定など)7人(3%)でした。例年と大きくは変わりませんが、民間企業の求人・採用が増加してきていること、公務員の募集・採用が減少してきていること、大学院進学者が増加傾向にあることが指摘されます。

大学院(博士前期課程)修了は83人で、進路の内訳は、民間企業76人(92%)、博士後期課程進学5人(6%)、海外留学1人(1%)、未定1人(1%)でした。

来年度の就職については、景気回復および団塊の世代の大量の定年退職で、民間企業の求人・採用は一層多くなることが予想されますが、学生諸君が希望するところに就職できるかどうかは、諸君の努力にかかっています。

◆民間企業希望者へ

民間企業の場合、学部卒業生に対しては、学力よりも人物・意欲を重視するということが多いようです。勿論、一定の基礎学力と教養・常識を備えているということが前提です。エントリーシートもまともに書けないようでは合格の見込みはありません。採用試験では小論文が課されます。文章を書く練習(漢字を含めて)を積んでおいてください。

人物・意欲は面接で計られます。毎年、諸君の面接の練習を指導していますが、はっきり言って、最初の面接練習では諸君の9割は不合格です。

しかし、この出来の悪さは練習によって飛躍的に改善されます。必ず練習してください。積極的・意欲的に取り組んだ学生がよい結果を残しています。

一方で、学部卒業生にも学力を要求する企業が増えてきました。学生諸君の基礎学力低下という実情が背景にあります。大学院修了者と区別せずに

試験を課して合否判定をするという企業もあります。このような場合、学部卒業生は大半が弾き飛ばされます。基礎学力と専門分野の基礎知識は是非、身につけておいてください。就職してからも、資格試験や昇任試験が待ち受けています。実力をつけてください。

◆公務員希望者へ

公務員は、はっきり言って狭き門です。団塊の世代が大量に退職するから採用が増えるのではないかという予測もありますが、定員削減の流れは変わらないようですし、受験倍率が低くなることもないでしょう。まずは筆記試験にパスしなければ話になりませんが、公務員対策ゼミあるいは勉強会など同じ目標をもつ仲間と競い合って勉強することが必要です。模擬試験は必ず受けてください。自分ひとりで勉強しますと、いつか成功した先輩はほとんどいません。情報交換し、自分のレベル・弱点を知って、競い合って勉強に取り組むという努力なしにはよい結果は得られません。

筆記試験にパスしたら面接の練習をしてください。面接で失敗した先輩も数多くいます。

◆大学院進学希望者および大学院生へ

本学の工学研究科(博士前期課程)の入試に關していえば、学部の勉強をまじめにしておけば問題ないでしょう。

大学院に進学したら(および大学院生は)、博士後期課程への進学も視野に入れて、指導教員および各専攻の就職委員とよく相談して進路を決めてください。修論に取り組むと同時に、各種の資格試験にも挑戦して下さい。学部の延長と違って漫然と過ごせば、就職戦線で同級生はおろか学部4年生にも負けます。大学院でさらに実力をつけ、成長してください。

キャリア形成における就職支援プログラム

農学部学生支援委員長 秋光 和也



農学部では、就職活動への早期着手が実りある成果を得るための一つの鍵になると考え、半歩早めの就職支援プログラムを進めています。

ガイダンスの初回は夏休み前に行い、前年度の就職活動の実態報告と、今年度の就職戦線の動向予想について、学外から講師をお招きしてご講演頂きました。100名以上の学生が参加して、これから始まる就職活動に対する心構えや、具体的な活動方法をわかりやすく説明して頂きました。農学部の学生は県外生が多いため、夏休みで帰省する際に、頭のすみに就職活動のことを少しでも置いてほしいという配慮もこめられています。



秋に入りますと本格的な就職ガイダンスが開催されます。今年度は、学外から2名の講師をお招きして、就職活動全般についての講演、および公務員試験についての講演をお願いして、120名以上の学生が参加しました。就職活動の開始に役立つ情報を収集と、公務員試験の準備に向けて有益なアドバイスと勉強法を説明して頂きました。

これらの入門的ガイダンス終了後には、10月下旬という通常より早い時期に農学部主催の「企業説明会」を開催しました。ご参加頂いた各種企業ごとにブースを設け、採用担当者による説



明と学生による質疑応答を行いました。150名以上の学生諸氏が参加し、真剣な表情で担当者の話に聞き入っていました。

また、休憩時間には採用担当者の皆様と田島学部長や農学部教員との懇談の時間をとり、農学部学生の採用に向けて、積極的な取り組みがなされました。大学における企業説明会を10月下旬に行うと、多くの他大学よる同様の企画より約1ヶ月早い開催となります。この開催時期につきましては、ご参加頂いた企業各社に御意見を頂き、アンケート結果を取りまとめている最中ですが、いち早く学生諸氏に就職支援ができたと考えています。

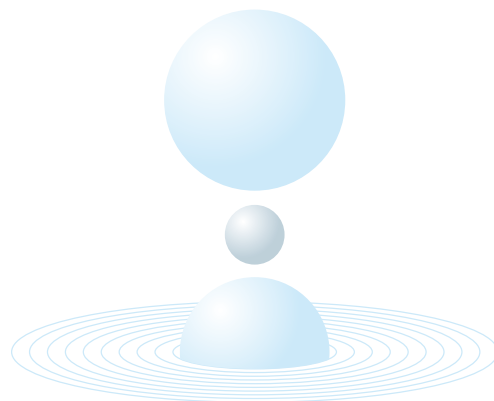


企業説明会後も、エントリーシート/面接対応等の具体的なトピックによるガイダンス、既に内定が確定した学生によるパネルディスカッション、農学分野に特化した公務員対策ガイダンスと就職支援プログラムは続きます。

3年次に研究室分属して、学年が上がる程、研究や学業で忙しくなる農学部学生諸氏のキャリア支援体制の確立は、学部における重要な課題です。学生諸氏にとって、目下のキャリア支援といえば就職内定獲得に向けた支援を意味すると思います。しかしながら、就職状況は、その時々時代の流れや経済動向にも大きく左右されます。大学におけるキャリア支援は、現時点のみに留まらず、未来への継続的なキャリア形成のための

土台作りの支援と考えて下さい。大学での研究教育課程はもちろんのこと、研究室での人付き合い、学会やシンポジウムでの他大学、企業や省庁の研究所の研究員の方々との付き合い方等、何をとっても若い皆さんにとってのキャリア形成のための一コマとなるはずです。そのようなキャリア形成という大きな枠の中で、半歩前に現れる道標となる支援プログラムの確立を目指します。

学生諸氏が充実した就職活動を展開され、時間と経験を必要とするキャリア形成のために日々の努力を惜しまず、将来大いに活躍される事を期待しております。



ある先輩から後輩へのアドバイス ～電子メールによる就職相談事例から～

学生就職指導相談員 田淵 孝満



就職指導相談員として、『学園の志おり』に原稿を寄せる機会を頂くようになって4回目になります。今回は、＜電子メールによる就職相談＞事例を採り上げたいと思います。

事例は＜農学部:S子さん＞からのメール相談です。S子さんからのメール相談は、農学部サイトや就活中の遠隔地から、10回近くに及びました。

Sさんは、民間企業と公務員を両立させて就職活動をしてきましたが、民間の第1志望には失敗し、第2志望の内定を得た後、最終的に公務員試験に合格し、公務員の道を選びました。

Sさんから公務員合格を知らせるメールを頂いた時、私は、「合格おめでとう」のお祝いの言葉に加えて、「Sさんの就職活動体験を通して得た＜知恵やノウハウ＞を、後輩に伝えるため体験談を聞かせて欲しい」と返信メールでお願いしました。

以下、Sさんの就職活動体験と後輩へのアドバイスの返信メールです。

『ありがとうございます。

私の体験談を書けという事ですね。私自身、企業の就職活動で成功した方ではないので、失敗談になるところが多いですが・・・。

私はメーカーの開発部を希望して就職活動をしてきました。

その中で、一番大事だったのは、その会社の商品を徹底的に研究することだったと今は思います。私はお菓子メーカーを希望していたので、スーパーで新商品のお菓子を買って、パッケージや味について自分なりに評価を繰り返しました。このパッケージは〇〇会社と比べるとつまらないなあとか。それで面接で、その会社の商品をどうすればもっとよくなるかを提案すると、真剣に話を聞いてもらうことができ、選考過程を進んでいける気がしました。どの企業もやはり、不況の中、商品開発に苦戦を強いられているのが面接をしていても伝わってきました。なので、企業側としては常に問題意識を持った人を必要としていると感じました。

もう一つは、エントリーシートは早くから書く練習をした方がいいと思います。私は就職活動を始めた2ヶ月ほどは、ほとんどエントリーシートで落とされていました。落ちてはまたひたすら書いて、持ち駒を増やす・・・の繰り返しでした。思っていた以上にエントリーシートの壁は高かったです。そんなときにすでに社会人になっている先輩から、その人が就職活動中に書いたエントリーシートを見せてもらいました。私との書き方の違いに驚きました。『自分はこういうことをしてきて御社に興味があって、御社には他社にはない、こういうところが魅力で、だから御社で働きたい』と明確に書かれていました。私もこれに習って、書いてみるとエントリーシートを通過できるようになったのです。エントリーシートにはたぶんコツがあると思うので、私は参加できませんでしたが、学内で開催される「エントリーシートの書き方・添削セミナー」には是非出席すべきだと後輩には勧めたいです。

あと公務員と就職活動を両立させることは、時間がなくて不安でした。私は、学校にいるときは実験と企業研究にあてて、家に帰ると寝るまでは公務員の問題集を一日一問でも解くようにしていました。独学だったので、周りの状況が見えずに不安でしたが、その分、予備校主催の模試は欠かさず受けるようにしていました。私の場合は、第一志望の会社からは内定をもらえませんでした。かえってそれが公務員の勉強のやる気になったと思います。

今は長かった就職活動を終えて、ほっとしているところです。残りの学生生活を大切にしていきたいです。

田淵さんには、就職活動のいろいろな相談に乗っていただき、本当にありがとうございました。周りの人たちの支えあっての就職活動だったと感謝しております。』

実は、Sさんから返信メールをここに掲載するに当り、ご本人のご了解を頂くために、電話にてコンタクトを取ったところ、掲載を快諾して頂きました。また、Sさんの、「元気で働いています!」という明るい声を聞いたことは、嬉しいことでした。